

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立西部特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立西部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	140人(令和5年5月1日現在)

1. 使用状況

寄贈物品名	T Dパイロット（視線入力装置）
使用学年及び人数	中学部(訪問教育)3年1人
使用頻度	9月週1回以上、10月以降週3回
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに施設に持ち運んで使用している。 ・授業時の通常の姿勢は、ベッド上での仰臥位のため、アタッチメントで液晶アームと接続して使用している。 <p>(※液晶アームが届く時期が遅れたため、使用開始が9月になった。)</p>
物品の使用による変化や効果	<p>1 見る力の向上、因果関係の理解を促す シューティングゲームアプリ、絵本アプリ、楽器アプリを使用して注視や追視、見る範囲の向上や因果関係の理解を促す目的で使用。</p> <p>2 コミュニケーション支援 健康調べ、活動、絵本、曲などの選択、感想を「ドロップタップ」を使用して視線入力で伝える活動に使用。</p> <p>自分の力で物に働き掛けることができる状況や自分のやりたい活動ができる、自分の思いが伝わる状況に、学習への意欲が向上している。授業(視線入力)を頑張りたいと、テレビを見ずに授業に備えている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・11月以降、高等部での活用を開始する予定。 ・今後、ICT活用プロジェクトから視線入力の支援による授業を校内に紹介し、視線入力がある支援になりそうな児童生徒への活用を促す。 ・個に応じた環境に固定して使用することが理想だが、共有で使用するため難しい。そのため、毎回、使用開始までのセッティングに時間を要する。これまでの使用経験をもとにマニュアルを作成し、使用しやすい環境を整える。
その他希望や所感など	<p>本体がipadであるため、教材の作成が容易である。</p> <p>既存のアプリ以外も使用可能で、個々に応じた教材を準備することができる。また、情報の入手や教材の共有も可能で授業準備時間を短縮できている。</p>

2. 活用の様子

<日めくり・天気調べの活動>

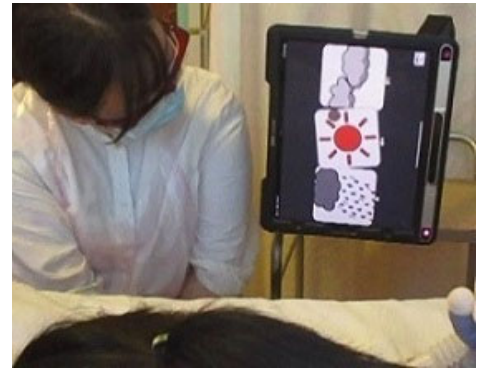
①



①日付、曜日、天気、
〇〇の日、季節
などの情報を音
声で確認します。

②天気を確認した
後、「天気クイ
ズ」をしました。

②



<今日の活動を定める>

③



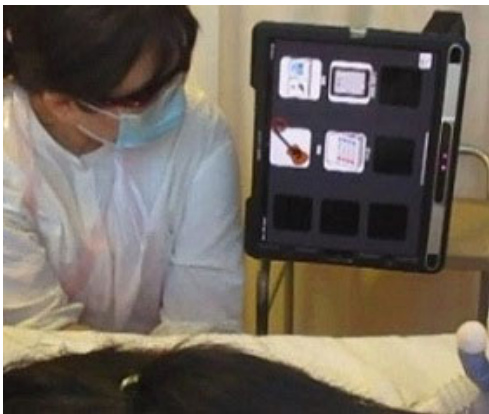
③提示した三つの
活動から「えほん
をよむ」を選択し
ました。

④活動の順番を入
れ替えました。

④



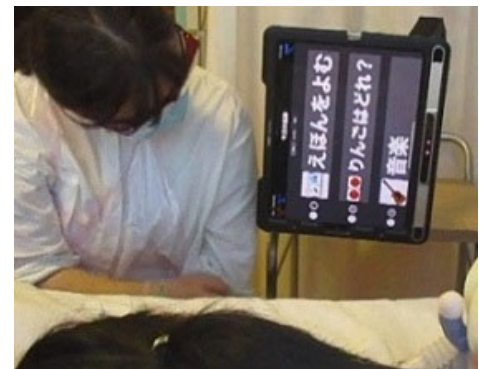
⑤



⑤三つ目の活動を
他の活動にし
たい、と伝え、音
楽を選択しました。

⑥「今日の活動」が
決まりました。一
つずつ音声で確
認しました。

⑥



<お絵描きアプリで描いた作品>

